

目指すコーチング

中学校のコーチングで、最も大切なことは、生徒達の信頼関係創りです。自分の子供と同じ、それ以上歳の離れた生徒達との信頼関係は、そう簡単には創れません。また、保護者や学校とのコミュニケーション（価値観の共有）も重要です。

運動部である以上、誰もが結果に拘るのは当たり前ですが、結果だけが信頼関係に繋がると思いこんだり、勝った者が偉いという雰囲気を作ったりしてはいけません。レギュラーになれなくても、試合に勝てなくとも、その同じ瞬間に、一緒に喜び、悩み、苦しみ、悔しがり、感動する全てが人生の糧となり、いつか良い思い出となると思います。

私は、ソフトテニスを中学から大学までプレーし、大学体連1部リーグで実力差に挫折後、格下の体同連1部リーグに移り、レギュラーとして勝つことが全てという勘違いを続けて来ました。当時の監督・コーチ・先輩のアドバイスは、一方通行の欠点だけの指摘と精神論が殆どで、全てを試合結果だけで判断され判断していたのです。

そのため、敗者になることを恐れ、苦しさだけの思い出しか残っておらず、最後の大会でまさかのシード初戦負けをくらい、ソフトテニスを封印していたのです。

24年間の封印を解くにあたり（活動動機・活動方針は、活動実績の中の記載を参照）、生徒達に私と同じ間違いをしないように、少なくとも将来良い思い出となるようなコーチングを目指しております。